



[原著]

臨地実習における看護学生の「主体性」の 特徴に関する文献的考察

～概念分析の手法を参考にした検討～

藤川真紀¹⁾、横山光稀²⁾、楠葉洋子³⁾

1) 福岡女学院看護大学看護学部看護学科

2) 純真学園大学保健医療学部看護学科

3) 国際医療福祉大学大学院

要旨

臨地実習における看護学生の「主体性」の特徴について、概念分析の手法を参考に文献を用いて明らかにした。その結果、主体性の属性は、【看護実習生としての責任】【自ら率先して考え行動する】【粘り強く取り組む】【看護者としての自覚の芽生え】、先行要件は【学習者としての自覚】【患者に喜んでほしい】【実習を乗り越える仲間の存在】【自己効力感の獲得】【ロールモデルの存在】、帰結は【実習遂行における自己課題に取り組む】【看護学生としての実習における役割の獲得】【患者に必要な看護を見極める】【アセスメントと看護計画立案の向上】【看護職を目指す決意】を抽出した。臨地実習における看護学生の「主体性」の特徴は、自分で選んだことに対する責任を負うことを基盤とした、看護者としてのアイデンティティに繋がるものであった。看護師を目指す自覚と看護実践の喜び、実習仲間の存在、自己効力感の獲得を意識した教育的関りが臨地実習における看護学生の「主体性」に影響することが示唆された。

キーワード：看護学生，臨地実習，主体性

1. はじめに

社会の様相がかつてないスピードで変化している。将来予測が困難な時代であり、そうした社会で生き抜くためには自分で考え行動できる人材が必要とされ、その育成は我が国の課題である(1)。特に医療の現場では、高度化・複雑化が進んでいるだけでなく、患者の望むサービスも多様である。看護者には、様々な場面で人々の身体状況を観察・判断し、状況に応じた適切な対応ができる看護実践能力が求められている(2)。社会で必要とされる看護職の責任と役割を果たすためには、自ら学び続け

る看護職になるように看護基礎教育からアプローチしていくことが必要である。前述したように、将来予測が困難な時代において答えのない問題に主体的・能動的に取り組んでいく姿勢が大学生に求められており(3)、看護学生においても同様である。看護基礎教育では、講義、演習、実習と3つの授業形態が行われている。看護は実践の科学であるため、単に知識の習得にとどまらず、実践の場で、看護を展開し、医療職としての責任や態度の修得を目指している。この臨地実習は看護基礎教育の中でカリキュラム総時間数の約1/3を占

藤川真紀

福岡女学院看護大学
〒811-3313 福岡県古賀市千鳥1-1-7
e-mail: m_fujikawa@fukujo.ac.jp2024年 7月 9日受付
2024年 9月 2日受理

め、看護実践能力を強化するために重要な授業である。実習は、実在する患者への直接的な看護を実践する学習である。看護師になる土台となる実践科目であり、アクティブラーニングに位置づけられている(4)。

実践科目を学修する必要のある看護学生は、看護基礎教育課程に入学すると同時に、学習への主体性が求められており(5)(6)、高度なアクティブラーニングである臨地実習での看護学生の主体性は必須といえる。また、学生の主体性は実習評価における「実習態度」を評価する項目としても用いられることが多い。しかし、実際に看護を提供できるまで確実に知識や技術を修得しておく必要があるにもかかわらず、十分に修得できていない(7)など看護学生の主体性が発揮されていないことが問題となっている。

学習への主体性は職業的アイデンティティに影響する(8)ことから、看護学生に主体性が育まれると専門職業人として職業や役割に結び付いた行動や価値観を獲得していくことになる。現代の学生の特徴としての生活体験の乏しさから、教育を行う上では、教員の丁寧な関わりが必要となる。しかしながら、臨地実習における主体性について、その概念が共通理解されているとはいいがたく、教員の経験に基づいて「主体性」の評価が行われていることが多いことが考えられる。

看護領域における概念分析の手法を用いた研究は、患者を対象としたものでは「苦痛」(9)「苦悩」(10)、「何らかの健康問題・課題を抱えた成人および高齢者の主体性」(11)、看護学生を対象としたものには「気づき」(12)「看護上の判断」(13)、「子どもの主体性」(14)がある。しかし、日常的に使われる臨地実習に限定した看護学生の「主体性」について共有できるような明確な定義を検討したものは見当たらない。臨地実習において、主体性促進を意図した教授活動は、看護学教育の質向上、ひいては、自律した看護職への基盤づくりとなり得る。看護教育という観点から、あらためて、看護学生の臨地実習における「主体性」の意味の整理を行い、主体性を育む実習教育に活用していく必要がある。

II. 研究目的

看護学生の臨地実習における「主体性」の特徴を明らかにする。

III. 研究方法

1. 研究デザイン

Walker & Avant や Rogers の概念分析の手法を参考にした文献研究

2. 対象となる文献の選定

主体性の特徴を明らかにするために1)辞書、2)看護学の学術論文を文献として選定した。看護学教育における実習方法は、日本と諸外国では異なっている可能性が高いことから本研究では和文論文に限定した。

1) 辞書

入手可能な日本の辞書での主体性の定義を確認する。

2) 看護における論文検索

文献検索には、医学中央雑誌(医中誌 Web.Ver. 5)、CiNii のデータベースを用いた。看護学生の主体性は、IT化の促進、モノや情報の充足化により生活体験や思考の変化が生じる(15)社会背景や、看護学生を取り巻く環境の影響が大きいと考えられたため、2000年以降の和文献のみを対象とした。検索キーワードは医中誌 Web「看護学生」「実習」「主体性」とし、原著論文65件を検出した。CiNiiも同様のキーワードとし原著論文17件を検出した。CiNiiで検出した論文のうち医中誌 Webと重複する10件を削除した。対象となる論文は72件となった。除外した論文は、専門学校や保健師学校の学生を対象としたもの、患者の主体性について述べている文献である。文献のタイトル、要約を参照し、研究対象者を限定せず結果および考察に看護学生の主体性の記述がある17文献を抽出した(2024年4月19日検索)。

3) 用語の定義

看護学生とは、大学で看護学を専攻する学生とする。

3. 分析方法

看護論文の分析は、「主体性」の特徴を明らかにするため、概念の基礎となる要素を調べるプロセスを用いる Walker &

表1 分析対象の論文

文献番号	タイトル	研究対象	著者
1	母性実習の主体的グループ学習が及ぼす学生の思考プロセスの検討	4年生 6名	片山ら (2001)
2	学生の主体性を引き出す小児看護学教育方法・内容の検討 学習過程の節目毎の認識の変化に焦点を当てて	3年生	添田ら (2004)
3	初回基礎看護学実習レポートの分析(その2) 看護職者としての資質に関連した学び	学生のレポート	辻野ら (2008)
4	臨地実習指導者が捉える「学生の主体性」に関する基礎的研究	臨地実習指導者3名	古谷ら (2011)
5	改正カリキュラム導入後の小児看護学病棟実習における看護学生の達成感に関する分析	3年生	田中ら (2012)
6	成人看護学実習の前後で変化した看護学生の社会人基礎力	3年生	梅川ら (2015)
7	クリティカルシンキング力の変化：領域別学習の前後における比較	3年生	李ら (2016)
8	看護大学最終学年次の学生の 職業的アイデンティティに影響する要因	4年生	中村ら (2017)
9	成人看護実習における事例発表会の学びと課題の検討	3年生	福岡ら (2017)
10	看護学生の臨地実習中の主体性に影響を与える自身の要因	4年生 9名	船崎ら (2017)
11	小児看護実習におけるベア実習に対する学生の評価	3~4年生 5名	林ら (2018)
12	課題別統合実習における学生の自己評価に影響する要因	4年生	池本ら (2019)
13	小児看護実習におけるベア実習に対する学生の感じるメリット・デメリット 実習時期による違い	3~4年生 10名	林ら (2019)
14	老年看護学実習1のルーブリックを用いた評価の作成とコロナ禍におけるオンライン実習と臨地実習での応用を試みて	3年生約20名	塩ら (2022)
15	看護系大学の看護学実習における実習インストラクターによる学生への学習支援	実習教員 9名	加藤ら (2022)
16	オンラインを用いた老年看護学実習における看護学生の学びと課題	3年生	長ら (2022)
17	老年看護学実習における看護学生のケア意識の育成プロセスとその支援	看護教員 7名	高野ら (2023)

Avant (16) や Rogers (17) の分析の方法を参考にした。具体的には、分析対象文献の内容から看護学生の実習における「主体性」という概念を構成する属性、および「主体性」に先立って生じる先行要件、「主体性」の結果として生じる帰結について、該当する記述内容を表計算ソフト Excel に入力しデータシートを作成した。その際、著書の主張や表現を可能な限り残すようにしてコードとして記述した。抽出されたコードの共通性と相違性に基つきカテゴリー化した。なお、「主体性」に先立って生じる先行要件ではコード数が多いため、先行研究 (13) を参考に、コードからサブカテゴリーへ、さらに抽象度をあげ、カテゴリーを抽出した。臨地実習指導及び質的研究の経験を有する教員にスーパーバイズを受けながらカテゴリーを洗練化した。

4. 倫理的配慮

倫理的配慮として、著作権法に基づき文献の出典を明記し、著作物の論旨・意図を損なわないようにした。

IV. 結果

「主体性」の一般的な意味

広辞苑 (18) において主体性は、「主体的であること。またそういう態度や性格であること」とされる。主体的とは、「ある活動や思考をなすとき、その主体となって働きかけるさまであり、他のものによ

て導かれるのではなく、自己の純粋な立場において行うさま」とされている。他の辞書では、「自分の考えや立場をはっきり持ち、まわりからの影響を受けずに動く性質」(19)、「他から影響されることなく、自分の意志や判断によって行動しようとする性質・態度」(20)と示されていた。日本語辞典(21)のみ英訳で「identity」と表記されていた。英語の identity は、一般的に「同一であること」を意味し、「本質、独自性、個性、主体性」が含まれる。看護の学術論文による臨地実習における看護学生の「主体性」について分析対象とした論文のうちほとんどが質的研究であった(表1)。看護学生の臨地実習における「主体性」に関する文献は、主に、臨地実習指導者や教員が捉えた「主体性」について緒言や考察の中に記述されていた。学生が捉えた「主体性」は、臨地実習中の主体性に影響を与える自身の要因(文献番号10)について述べた1件であった。

1) 臨地実習における看護学生の「主体性」の属性

看護学生の実習における主体性の属性について、明記していたのは17文献中14件であり、39のコードを導き出した。属性として、【看護実習生としての責任】【自ら率先して考え行動する】【粘り強く取り組む】【看護者としての自覚の芽生え】の4つのカテゴリーが抽出された。カテ

医学と生物学 (Medicine and Biology)

表2 「主体性」の属性

属性	内容 (コード数)	文献
看護実習生としての責任	臨床にいることを絶えず意識する (3)	添田ら (2004) 船崎ら (2017) 長ら (2022)
	実習に期待し成長したい (2)	福岡ら (2017) 長ら (2022)
	未熟さの自覚 (2)	塩ら (2022)
自ら率先して考え行動する	疑問を持ち考える (3)	辻野ら (2008) 古谷ら (2011) 中村ら (2018)
	行動を選択する (4)	船崎ら (2017) 中村ら (2018) 林ら (2019)
	表現したり発言する (3)	辻野ら (2008) 古谷ら (2011) 梅川ら (2015)
粘り強く取り組む	どうしたらいいかを事前に学習する (3)	古谷ら (2011) 塩ら (2022)
	何に意識して取り組みばよいか考える (3)	塩ら (2022)
	解決に向けて実行する (4)	辻野ら (2008) 古谷ら (2011) 梅川ら (2015) 中村ら (2017)
看護者としての自覚の芽生え	チームの一員を実感 (2)	池本ら (2019) 林ら (2019)
	患者の立場で考える (2)	辻野ら (2008)
	援助を探究する (3)	古谷ら (2011) 高野ら (2023)
	看護師の振る舞いから学ぶ (4)	古谷ら (2011) 田中ら (2012) 中村ら (2017)

てであり、123のコードから11のサブカテゴリーを導き出し、先行要件として、【学習者としての自覚】【患者に喜んでもらいたい】【実習を乗り越える仲間の存在】【自己効力感の獲得】【ロールモデルの存在】の5つのカテゴリーが抽出された。カテゴリーを【 】, サブカテゴリーを [] で示した (表3)。

【学習者としての自覚】は、[自分の置かれた状況の認知][自己の課題がある][学ぶことを見出す]の3つの内容で構成された。

【患者に喜んでもらいたい】は、[看護過程展開しケアを実施][学びを深めた実感][患者に合

った看護をしたい]の3つ内容で構成されていた。

また、【実習を乗り越える仲間の存在】は、[安心できる実習グループ][実習グループの効果的な影響]の2つの内容で構成されていた。

【自己効力感の獲得】は、[肯定的な指導支持的な態度][不安で気がかり]の内容で構成されていた。

【ロールモデルの存在】は、[職業モデルの存在]の内容で構成された。

3) 臨地実習における看護学生の「主体性」の帰結

看護学生の主体性の帰結について、明記していたのは17文献中11件であり、41のコードを導き出した。【実習遂行における自己課題に取り組む】【看護学生としての実習における役割の獲得】【患者に必要な看護を見極める】【アセスメントと看護計画立案の向上】【看護職を目指す決意】の5つのカテゴリーが抽出された (表4)。

【実習遂行における自己課題に取り組

医学と生物学 (Medicine and Biology)

表3 「主体性」の先行要件

先行要件	サブカテゴリ	内容 (コード数)	文献
学習者としての自覚	自分の置かれた状況の認知	やらざるを得ない (2)	片山ら (2001) 船崎ら (2017)
		学生の役割を自覚する (4)	片山ら (2001) 船崎ら (2017) 池本ら (2019)
		向上心がある (6)	船崎ら (2017) 福岡ら (2017)
		患者をケアしたい (3)	船崎ら (2017) 高野ら (2023)
	自己の課題がある	達成したい課題がある (2)	片山ら (2001) 福岡ら (2017)
		学習の必要性を実感 (2)	福岡ら (2017)
		自分と向き合う (2)	添田ら (2004) 池本ら (2019)
	学ぶことを見出す	学習の理解がつながるおもしろさ (5)	添田ら (2004) 福岡ら (2017)
		看護の視点に興味を持つ (4)	添田ら (2004)
	患者に喜んでもらいたい	看護過程展開しケアを実施	ケアに至るまでの判断 (6)
患者との関係をつなぐ (2)			池本ら (2019) 高野ら (2023)
ケアに導く支援 (4)			福岡ら (2017) 林ら (2018) 池本ら (2019) 高野ら (2023)
援助ができた実感 (2)			高野ら (2023)
学びを深めた実感		達成感から得られた自信 (4)	添田ら (2004) 中村ら (2017) 高野ら (2023)
		助言からの新たな気づき (5)	福岡ら (2017) 林ら (2019)
		やりがいや関心の高まり (7)	辻野ら (2008) 福岡ら (2017) 林ら (2019)
患者に合った看護をしたい		将来を考え経験したい (2)	池本ら (2019)
		臨床で役立つと感じる (2)	福岡ら (2017)

医学と生物学 (Medicine and Biology)

表3 「主体性」の先行要件（続き）

先行要件	サブカテゴリ	内容（コード数）	文献	
実習を乗り越える 仲間の存在	安心できる実習グループ	助け合い不安が減る（2）	林ら（2018）	
		意見をいいやすい良好な関係（3）	田中ら（2012） 林ら（2018）	
		役割を果たすメンバーの存在（3）	辻野ら（2008） 田中ら（2012） 船崎ら（2017）	
	実習グループの効果的な影響	意見や視野を広くする（2）	福岡ら（2017）	
		新たな視点に気づく（2）	福岡ら（2017）	
		仲間と相互に刺激しあう（5）	片山ら（2001） 船崎ら（2017） 林ら（2018）	
		仲間と学びあう（3）	船崎ら（2017） 林ら（2019）	
	自己効力感の獲得	肯定的な指導と支持的な態度	自己効力感を高める（6）	古谷ら（2011） 田中ら（2012） 中村ら（2017） 船崎ら（2017） 林ら（2018） 高野ら（2023）
			不安や緊張を緩和する関わり（10）	田中ら（2012） 福岡ら（2017） 船崎ら（2017） 池本ら（2019） 加藤ら（2022）
		不安で気がかり	考えを引き出す指導（6）	片山ら（2001） 梅川ら（2015） 梅川ら（2015） 林ら（2018） 加藤ら（2022）
頑張りを認める（5）			田中ら（2012） 福岡ら（2017） 池本ら（2019） 加藤ら（2022）	
緊張感とケアへの恐怖（2）			船崎ら（2017） 長ら（2022）	
ロールモデルの存在		職業モデルの存在	一人ではできない（4）	辻野ら（2008） 梅川ら（2015） 李ら（2016） 塩ら（2022）
			看護師から学ぶ機会（2）	船崎ら（2017） 塩ら（2022）
		自分の将来像を描く（1）	辻野ら（2008） 田中ら（2012） 中村ら（2017）	

表4 「主体性」の帰結

帰結	内容(コード数)	文献
実習遂行における自己課題に取り組む	客観的に自己評価できる(3)	辻野ら(2008) 池本ら(2019) 塩ら(2022)
	課題を明らかにする(2)	辻野ら(2008)
	課題を把握し取り組む(2)	梅川ら(2015) 塩ら(2022)
看護学生としての実習における役割の獲得	実習中の学生の報告連絡相談(2)	古谷ら(2011)
	実習中の学生の援助の準備(1)	古谷ら(2011)
	実習中の学生のメモを取る行動(1)	古谷ら(2011)
	実習中の学生と患者のコミュニケーション(1)	古谷ら(2011)
患者に必要な看護を見極める	患者の全体像を理解した計画と実践(2)	田中ら(2012)
	積極的に患者の援助に入る(2)	福岡ら(2017)
	振り返りケアに生かす(2)	梅川ら(2015) 林ら(2018)
	ケアの可能性の拡大(3)	古谷ら(2011) 林ら(2019)
アセスメントと看護計画立案の向上	情報収集から援助を判断(2)	梅川ら(2015)
	実施した看護を客観的に評価(2)	梅川ら(2015) 福岡ら(2017)
	既習の知識から解決策を作り出す(1)	梅川ら(2015)
	看護の責任を果たすための学習姿勢へ変化(2)	福岡ら(2017) 林ら(2019)
看護職を目指す決意	援助の手ごたえによる達成感(4)	田中ら(2012) 池本ら(2019) 高野ら(2023)
	看護師になる信念(7)	辻野ら(2008) 中村ら(2017)
	看護師の選択を納得する(2)	中村ら(2017)

ごたえによる達成感>
<看護師になる信念>
<看護師の選択を納得する>の3つの内容で構成された。

V. 考察

1. 臨地実習における看護学生の主体性の特徴
明鏡国語辞典(20)による主体性は、「他から影響されることなく、自分の意志や判断によって行動しようとする性質・態度」と示されている。すなわち、「率先して行動する姿勢」と「自分の責任における行動の実行」を意味している。しかし、臨地実習における学生の主体性には、考えて行動する学習者としての特徴があった。専門職業人を目指す看護学生は、職業や役割に結び付いた行動

む]は3つの内容から構成された。内容には、<客観的に自己評価できる><課題を明らかにする><課題を把握し取り組む>があった。

【看護学生としての実習における役割の獲得】は<実習中の学生の報告連絡相談><実習中の学生の援助の準備><実習中の学生のメモを取る行動><実習中の学生と患者のコミュニケーション>の4つの内容から構成された。

【患者に必要な看護を見極める】は、<患者の全体像を理解した計画><積極的に患者の援助に入る><振り返りケアに生かす><ケアの可能性の拡大>の4つの内容から構成された。

【アセスメントと看護計画立案の向上】は、<情報収集から援助を判断><実施した看護を客観的に評価><既習の知識から解決策を作り出す><看護の責任を果たすための学習姿勢へ変化>の4つの内容から構成された。

【看護職を目指す決意】は、<援助の手

や価値観を臨地実習の中でその多くを獲得していく。本研究で示された【看護実習生としての責任】【看護者としての自覚の芽生え】【自ら率先して考え行動する】【粘り強く取り組む】という主体性の概念を構成する属性の4つのカテゴリーは、看護職者としてのアイデンティティに繋がるものであった。

【看護実習生としての責任】と【看護者としての自覚の芽生え】は、看護学生から看護者へと推移しながらも並行して存在する状況である。小沢ら(22)は、専門領域実習を重ねるほど「看護観の確立」「社会貢献の志向」が強くなり、職業的アイデンティティとの関連を報告しており、実習を経験することで看護学生としての責任と専門職者としての自覚が芽生えるといえる。

また、本研究で抽出した「属性」は、看護学生の内面とそれを表す行動で構成されていた。【看護実習生としての責任】【看護者としての自覚の芽生え】は、実習経験か

ら得られた看護学生の強い意志を表している。そして【自ら率先して考え行動する】【粘り強く取り組む】は具体的な行動を示しており、「自ら」という意味は行動の主体を示している。特にこの4つの属性は、実習経験を積むごとに関連が増し発展的に広がる性質を持つと考える。これは、行為主体性の3つの側面と類似する(23)。過去に形成された思考や行動が繰り返すうちにパターンとして蓄積し様々な型の中から適切なパターンが選択的に利用される反復の側面と、未来への期待や不安に影響されて思考や行動の修正が行われる投影の側面、現在の課題や状況に応じた目標を克服しようとする実践の側面である。

このように、看護学生の主体性は思考だけにとどまらず実際に行動し、試行錯誤しながら発展していく性質を持つと考える。

2. 臨地実習における看護学生の主体性の先行要件と帰結

「主体性」に先立って生じる先行要件では、【学習者としての自覚】【患者に喜んでほしい】【実習を乗り越える仲間との存在】【自己効力感の獲得】【ロールモデルの存在】が看護学生の特徴として集約された。これらの特徴は、分析対象としたすべての論文に該当しており、コード数も多かったことから主体性が出現するのに先立って生じる出来事や事象には多様な側面があるといえる。

【患者に喜んでほしい】【実習を乗り越える仲間との存在】【ロールモデルの存在】から、受け持ち患者に役に立ちたいという思いがあり、グループメンバーやロールモデルの存在が主体性を後押ししている。臨場感あふれる実習現場で、受け持ち患者やロールモデルの存在は、【学習者としての自覚】を強くする。【学習者としての自覚】に集約されたサブカテゴリーは、[自分の置かれた状況の認知][自己の課題がある][学ぶことを見出す]であった。[学ぶことを見出す]は、これまでの思考や実践における成功体験から生じた行動であり、「自分の考えや立場をはっきり持ち、まわりからの影響を受けずに動く性質」(19)を意味していると考えられる。また、【自己効力

感の獲得】は、＜肯定的な指導と支持的な態度＞や＜不安で気がかり＞で構成されていた。自己効力感は、実習を遂行していくために必要な行動をうまくできるという自信を示すものであり、ある行動を起こす前に個人が感じる遂行可能感である(24)。
＜肯定的な指導と支持的な態度＞は自己効力感を高める情報であり、＜不安で気がかり＞は自己効力感を低下させる情報である。この2つの相反する内容は、自己効力感の認知に関わり、主体性を生み出す重要な要素と言える。本研究で先行要件として抽出された【学習者としての自覚】【患者に喜んでほしい】の2つのカテゴリーは、看護師を目指す学生の使命感の表れであり、特に【患者に喜んでほしい】は看護実践の喜びに繋がり、看護師を目指す学習者の自覚や決意を強める。【実習を乗り越える仲間との存在】【自己効力感の獲得】【ロールモデルの存在】は、自分で考えることを主軸にしながら、日々の積み重ねや対人関係によって「主体性」がつけられていくことを示している。

主体性の帰結として、【患者に必要な看護を見極める】【アセスメントと看護計画立案の向上】につながり臨床判断できる看護職の基盤となる内容が抽出された。岡田(25)は、学生が実習経験を積み思考錯誤する中で、経験と内省を繰り返しながら患者中心の思考に転換し臨床判断の拠り所となる思考を獲得することを報告している。また、【実習遂行における自己課題に取り組む】ことや【看護学生としての実習における役割の獲得】などは、属性の特徴である【看護実習生としての責任】の結果としてつながる。

3. 臨地実習教育への示唆

医療の現場では、患者の容態は予測できないこともあり、情報を収集しその内容を分析・統合し指導を受けながら適切な判断をすることが必須である。この過程においては、学修者が自らの頭で考えること、それを表出することにより共有するプロセスが重要であり(26)、属性としての【自ら率先して考え行動する】【粘り強く取り組む】の要件と一致していた。臨地実習に

において、主体性促進を意図した教授活動は、看護学教育の質向上、ひいては、自律した看護職への基盤づくりとなり得る。そのため、このプロセスを主体性を育む実習教育に活用していくことで、看護学生が看護を創造していく可能性に繋がると考える。

本研究では、先行要件を抽出することによって、主体性を高める要因を見出すことを可能にした。先行要件である【実習生としての自覚】を持ち、属性としての【看護者としての自覚の芽生え】を強化するためには、臨地実習において、自分の知識の足りない所を自覚することや、自分のできることを認識する学生の認知を高める必要性が示唆された（メタ認知）。また、臨地実習科目は、対象者と直接かかわって看護を展開する場（27）であり、学生は、学習面や実践面に対する不安だけでなく、患者、指導者、教員との関係等の対人ストレスを抱えやすい（28）。このようにストレスを抱えながら実習に臨む学生にとって先行要件としての【実習を乗り越える仲間の存在】【自己効力感の獲得】は、「主体性」を発揮していく上で重要である。安心できる実習グループやメンバー間で効果的な影響をもたらすように、グループメンバーと気持ちをつかち合い、互いに刺激しながら学びあえることが必要である。また、学生の自己効力を下げないような関り、自己効力を高める関りが教員だけでなくグループメンバーにも求められていると考える。

4. 本研究の限界

本研究は看護系大学生を対象とした国内17文献のみを反映した結果であり、結果の一般化には慎重にならざるを得ない。今後は、諸外国の様々な研究や実践報告などを幅広く収集し検討する必要がある

VI. 結語

臨地実習における看護学生の「主体性」の特徴を Walker&Avant や Rogers の概念分析の手法を参考に和文17文献を用いて分析した。

1. 主体性の属性として、【看護実習生としての責任】【自ら率先して考え行動する】【粘り強く取り組む】【看護者としての自覚

の芽生え】を抽出した。先行要件は、【学習者としての自覚】【患者に喜んでもらいたい】【実習を乗り越える仲間の存在】【自己効力感の獲得】【ロールモデルの存在】に分類された。また、帰結は【実習遂行における自己課題に取り組む】【看護学生としての実習における役割の獲得】【患者に必要な看護を見極める】【アセスメントと看護計画立案の向上】【看護職を目指す決意】に分類された。

2. 看護学生の臨地実習における「主体性」の特徴は、【看護実習生としての責任】【自ら率先して考え行動すること】【粘り強く取り組む】【看護者としての自覚の芽生え】であり、自分で選んだことに対する責任を負うことを基盤とした、看護者としてのアイデンティティに繋がるものであった。

3. 臨地実習における看護学生の「主体性」を促進していくためには、看護師を目指す【学習者としての自覚】、看護実践に込めた【患者に喜んでもらいたい】という感情（使命感）、看護師を目指す同志としての【実習を乗り越える仲間の存在】、行動をうまくできるという【自己効力感の獲得】を意識した教育的関りが重要であることが示唆された。

[利益相反の開示] 開示すべき利益相反関係にある企業・組織および団体等はありません。

引用文献

- (1) 中央教育審議会. “新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）:文部科学省”. 平成24年, p.1-30. https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2012/10/04/1325048_1.pdf, (参照 2024-06-06).
- (2) 大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会. “大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会最終報告:文部科学省”. 平

- 成 23 年, p.1-68.
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/40/toushin/_icsFiles/afieldfile/2011/03/11/1302921_1_1.pdf, (参照 2024-06-06).
- (3) 菅原秀幸. 大学生の主体性・能動性を引き出すアカデミック・コーチングへの挑戦. 支援対話研究. 2013, 1, p.49-57.
- (4) 森千鶴. コロナ禍の体験から問う実践につなげる看護学実習. 看護教育研究学会誌. 2022, 14(2), p.49-53.
- (5) 山口幸恵, 松田安弘, 山下暢子. 学生の学習への主体性促進を意図した看護学教員の教授活動. 群馬県立県民健康科学大学紀要. 2017, 12, p.17-31.
- (6) 八木美智子, 伊丹君和, 米田照美. 基礎看護学実習にのぞむ学生の主体性を育てる看護専門学校教員の経験. 人間看護学研究. 2022, 20, p.13-24.
- (7) 山下暢子, 舟島なをみ, 中山登志子. 看護学実習中の学生が直面する問題—学生の能動的学修の支援に向けて—. 看護教育学研究. 2018, 27(1), p.51-65.
- (8) 中村真理子, 藤本裕二, 藤野裕子, 松浦江美, 上野和美, 堀川新二, 楠葉洋子. 看護大学最終学年次の学生の職業的アイデンティティに影響する要因. 福岡女学院看護大学紀要. 2017, p.1-8.
- (9) 馬場友美, 清村紀子. 「患者の苦痛」の概念分析. 看護科学研究. 2022, 1, 20, p.1-13.
- (10) 長谷川幹子, 小林道太郎. 「患者の苦悩」の概念分析. 人体科学. 2019, 28 (1), p.10-21.
- (11) 伊藤真理, 秋元典子. 看護学領域における主体性の概念分析. 日本クリティカルケア看護学会誌. 2015, 11(3), p.1-10.
- (12) 乗越千枝. 臨地実習における看護学生の気づきに関する文献検討. 梅花女子大学看護保健学部紀要. 2020, 10, p.40-49.
- (13) 阿部オリエ. 臨地実習における「学生の看護上の判断」の概念分析. 日本看護科学学会誌. 2020, 40, p.465-473.
- (14) 田畑久江. 「子どもの主体性」の概念分析. 日本小児看護学会誌. 2016, 25(3), p.47-54.
- (15) 玉木敦子. 今どきの看護学生をどう育てるか. 神戸女子大学看護学部紀要. 2017, 2, p.1-10.
- (16) Walker, L. O.; Avant, K. C. 看護における理論構築の方法. 中木高夫・川崎修一訳. 医学書院, 2008, p.89-122. 原書名 Strategies for Theory Construction in Nursing. 4th edition, 2005.
- (17) Rodgers, B. L.; Knafl, K. A. Concept Development in Nursing. 2nd edition, Philadelphia: Saunders, 2000, p.77-117.
- (18) 新村出編. 広辞苑第7版. 岩波書店, 2018, p.1401.
- (19) 見坊豪紀, 市川孝, 飛田良文, 山崎誠, 飯間浩明, 塩田雄大編. 三省堂国語辞典第7版. 三省堂, 2014, p.680.
- (20) 北原保雄編. 明鏡 国語辞典. 大修館書店, 2003, p.763.
- (21) 梅棹忠夫, 金田一春彦, 阪倉篤義, 日野原重明編. 日本語大辞典. 講談社, 1989, p.923.
- (22) 小沢久美子, 久保宣子, 切明美保子, 日當ひとみ, 古館美喜子, 蛭田由美. 看護学生の社会的スキルと職業的アイデンティティの形成に関する研究—専門領域別実習前後および学年別の比較—. 八戸学院大学紀要. 2020, 61, p.55-61.
- (23) Mustafa Emirbayer; Ann Mische. What Is Agency. American Journal of Sociology. 1998, 103(4), p.962-1023.
- (24) Bandura, A. Self-efficacy: Toward a unifying theory of

- behavioral change. Psychological Review. 1977, 84(2), p.191-215.
- (25) 岡田麻里. 領域別看護学実習の経験の積み重ねにより臨床判断に必要な思考方法を学生が獲得していくプロセス. 日本看護学教育学会誌. 2020, 29(3), p.1-13.
- (26) 泉美貴, 小林直人. アクティブ・ラーニングとは (総論). 薬学教育. 2019, 3, p.1-5.
- (27) 二宮寿美, 野本ひさ. 看護学生が臨地実習中に示す心理的・生理的ストレス反応と対人対応能力(EQS)との関連. 日本看護学教育学会誌. 2009, 1(19), p.11-21.
- (28) 斎藤孝子. 臨地実習における看護学生をつまづき体験と解決に向けての資源活用. 神奈川県立看護教育大学校看護教育集録. 2000, 26, p. 150-157.

Literature Research on Characteristics of “Independence and Initiative” in Nursing Students during Clinical Practice; Examination Referring to Concept Analysis Methods

Maki Fujikawa¹⁾, Miki Yokoyama²⁾, Yoko Kusuba³⁾

1) Fukuoka Jo Gakuin Nursing University

2) Department of Nursing, Faculty of Health Sciences, Junshin Gakuen University

3) Department of Nursing, International University of Health and Welfare Graduate School

Summary

This study clarified characteristics of “independence and initiative” of nursing students during on-site clinical practice referring to literatures by a concept analysis method. As a result, extracted defining attributes of independence and initiative were “responsibility as a student nurse,” “taking initiative with considerations and actions,” “persistent approaches,” and “emergence of self-awareness as a nursing-provider.” “Self-awareness as a learner,” “desire to please patients,” “presence of peers in the completion of clinical training,” “acquisition of self-efficacy,” and “presence of a role-model.” were extracted as antecedents. As for consequences, the analysis extracted “working on a self-assignment in training executions,” “acquisition of the role as a nursing student during the clinical practice,” “figuring out necessary nursing care for a patient,” “improvements in assessment and planning for nursing,” and “the resolution for nursing profession.” Characteristics of “independence and initiative” of nursing students during the clinical practice were based on taking responsibility for their choice and related to the identity as a nursing care provider. It was suggested that “independence and initiative” of nursing students was affected by the awareness of pursuing a career as a nurse, the pleasure of nursing practice, the presence of study mates in the practical training course, and the acquisition of self-efficacy, which were kept in mind through educational involvements.

Keywords: nursing students, on-site clinical practice, independence and initiative